

適性検査Ⅱ

ちゅう い
注 意

- 1 試験監督しけんかんとくの先生せんせいの合図あいずがあるまで、中なかを開ひらかないでください。
- 2 検査問題けんさもんだいは、1 ページから 8 ページまであります。
- 3 解答用紙かいとうようしは、表おもてと裏うらの両面りょうめんに解答らんかいとうがあります。解答かいとうは、全すべて解答用紙かいとうようしに書かきましょう。
- 4 解答時間かいとうじかんは、45分間ふんかんです。
- 5 机つくえの上うへの「受検票じゅけんひょう」をよく見みて、解答用紙かいとうようしに、学校名がっこうめい、男女だんじょ、受検番号じゅけんばんごうをまちがいのないようかに書かきましょう。

もんだいようし
問題用紙のあいている場所ばしょは、したが下書きや
けいさん計算しょうなどに使用してもかまいません。

1

ともみさんのクラスでは、^{ひるやす}昼休みの^{じかん}時間を使って、^{つか}班ごとに^{はん}学校^{がっこう}周^{しゅう}辺^{へん}の^{どうろ}道路の^{ひろ}ゴミ^{かつどう}拾い活動をはじめることになりました。クラスのみんなの^{なか}中から、せつかく^{ひろ}ゴミ^{ひろ}拾いをするのだから、みんなのやる^き気がでるよう^なに、^{ひろ}ゴミ^{じかん}拾いにかかった^{まいかい}時間を^{きろく}毎回記録して、その^{ごうけい}合計が^{いちばん}一番^{みじか}短^かかった^{はん}班を^{ひょうしょう}クラスで^{いけん}表彰してはどうかという^{いけん}意見が^で出^{はな}ました。^あ話し^あ合いの^{けつ}結果、その^{いけん}意見どおりに^{たん}やっ^{たん}てみる^{せん}ことになり、^せ担任^{せい}の先生が^{ひろ}ゴミ^{ひろ}拾い^{じかん}にかかった^{きろく}時間を^{きろく}記録してくれることになりました。

- (1) ^{つぎ}次の^{ひょう}表は、^{かくはん}各班が^{かい}5回^{ひろ}ゴミ^{かつどう}拾い活動をした^{じてん}時点での^{ひろ}ゴミ^{ひろ}拾いにか^{じかん}かった^{じかん}時間をともみさんが^{まと}まとめた^{もの}ものです。クラスでの^{はな}話し^あ合いど^おおり^{ひょうしょう}表彰^{ばあい}する場合、^{ひょうしょう}表彰されるのはどの^{はん}班になりますか。班の^{ばんごう}番号で^{こた}答え^えましょう。

班名	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
1班	11分	14分	12分	15分	14分
2班	15分	12分	16分	10分	12分
3班	14分	13分	12分	10分	13分
4班	14分	12分	14分	13分	14分
5班	12分	10分	12分	14分	16分
6班	9分	13分	14分	15分	12分

(2) ところが、この表ひょうをクラスのみんなに見せたところ、次のような感想かんそうや意見いけんが出ました。

「時間じかんはかかったけど、とても丁寧ていねいにゴミひろを拾った班はんもあったよ。」

「遊びあそながらゴミ拾いひろをじかんしていて時間じかんのかかった班はんもあったよ。」

「みんな真剣しんけんにゴミ拾いひろをしても、時間じかんの短みじかかった班はんもあったよ。」

さて、担任たんにんの先生せんせいは、ゴミ拾いひろにかかった時間じかんと一緒いっしょにゴミ拾いひろ活動かつどうの「きれいさ」についても記録きろくしてくれていたの、今度こんどは、一番いちばんきれいにゴミ拾い活動かつどうができた班はんをまとめてみることになり、ともみさんは、次の表ひょうを新あたしくつくりました。

もし、「きれいさ」の点数てんすうの合計ごうけいで一番きれいにできた班はんを表彰ひょうしょうする場合ばあい、表彰ひょうしょうされるのはどの班はんになりますか。班はんの番号ばんごうで答えこたえましょう。

班名	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
1班	1点	1点	2点	2点	3点
2班	3点	2点	3点	2点	3点
3班	2点	2点	2点	1点	1点
4班	2点	3点	2点	1点	2点
5班	2点	2点	2点	3点	2点
6班	2点	2点	3点	2点	3点

※「きれいさ」の点数:とてもきれい(3点)、きれい(2点)、ふつう(1点)

(3) ここでまた、クラスのみんなから次のような感想や意見が出ました。
「かかった時間の短さときれいさでは1位が違うね。」

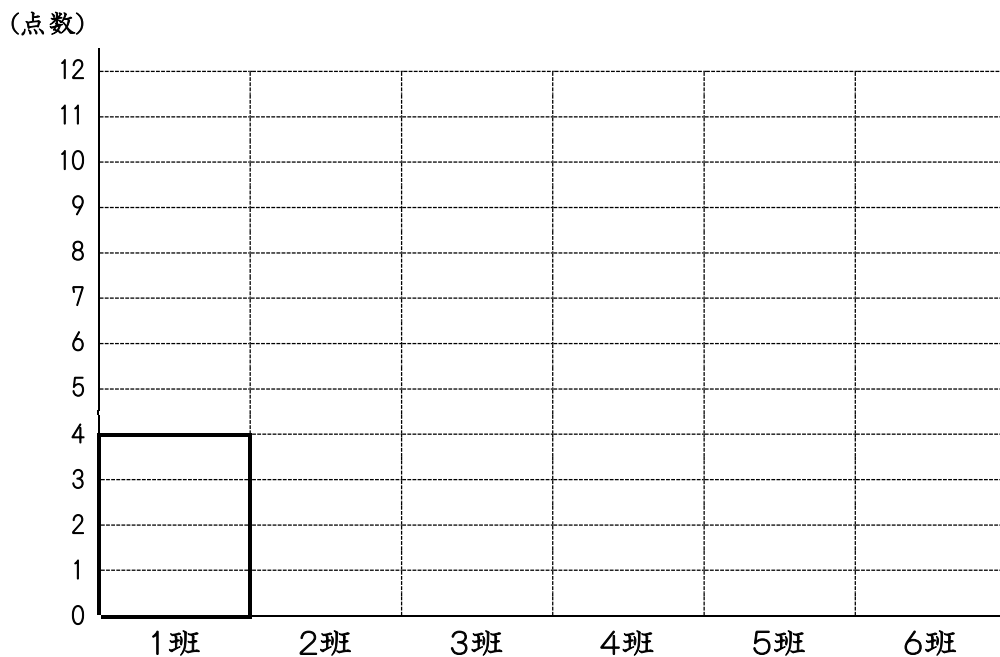
「かかった時間の短さときれいさの両方をみて表彰する班を決めるべきだよ。」

「比較しやすいようにグラフにしてみたらどうだろう。」

そこでともみさんは、ゴミ拾いにかかった時間の短さの合計と「きれいさ」の点数の合計のそれぞれについて、1位6点、2位5点、3位4点、4位3点、5位2点、6位1点の得点を各班に与えて、それらを合計したグラフをつくることにしました。

1班のグラフの書き方を参考にして、解答用紙のグラフを完成させましょう。

また、この場合、もっとも得点が高くなるのはどの班になりますか。班の番号で答えましょう。



(4) グラフを見たクラスみんなから、さらに次のような2つの意見が出ました。

「せっかくゴミ拾いにかかった時間の短さの合計やきれいさの合計で1位になったのだから、1位の班の得点はもっと高くしてもいいんじゃないかな。」

「ゴミ拾い活動をするこの意味を考えて、同じ1位でも、ゴミ拾い活動にかかった時間の短さよりも、きれいさで1位になった班の方がより高得点になるようにすべきだよ。」

ともみさんは、今までの話し合いで出てきた意見やグラフをつくったときの考え方をもとに、上の2つの意見も取り入れて、これまでの5回のゴミ拾い活動を得点化し、もっとも得点の高かった班を表彰するしくみを、あらためてみんなに説明しました。

ともみさんになったつもりで、ゴミ拾い活動を得点化し、もっとも得点の高かった班を表彰するしくみの説明を、解答用紙に書きましよう。

また、そのしくみで表彰されるのはどの班になりますか。班の番号で答えましよう。

次の会話文Ⅰと会話文Ⅱは、ある親子の間でのものです。この場面設定では、会話文Ⅰに登場する子どもが会話文Ⅱでは父親となっています。年代の異なる2つの会話文を読んで、(1)から(4)の問いに答えましょう。

会話文Ⅰ (1970年代のある親子の会話)

お父さん：ただいま。

子ども：お父さん、お帰り。夕飯ができているからみんなで食べよう。

お父さん：そうだね、お父さんも食べるとするよ。

お母さん：最近、お父さん、家に帰る時間が早くなったわね。

お父さん：そうだね。去年、札幌でも地下鉄が開通したので、会社までの通勤時間が短くなったからね。

子ども：いいな。ぼくも今度地下鉄に乗せてよ。

お父さん：いいよ。来週の日曜日、みんなで大通まで地下鉄に乗って、買い物に行こうか。

お母さん：あら、うれしいわ。わたしもデパートに行きたかったの。

お父さん：それはよかったね。ところで、今日は天気がよかったけど、学校が終わったあと、元気に外で遊んだかい。

子ども：うん、遊んだよ。クラスみんなと「スマイルにここ公園」でサッカーをやって、ゴールを決めたよ。

お父さん：そうか。ところで、公園でボール遊びをされていて、近所の人にしかられるようなことはないかい。

子ども：大丈夫だよ。だって公園の周りに家は1つもないし、他に遊んでいる人もいないので、ボールが当たる心配はないよ。

お父さん：それだったら安心だ。

お母さん：じゃあ、公園の話はそこまでにして、みんなで夕飯を食べましょう。今日の夕飯はカレーライスよ。

子ども：おなかすいたね。早くカレーライスを食べたいよ。

かいわぶん ねん おやこ かいわ
会話文Ⅱ (2014年のある親子の会話)

とう
お父さん：ただいま。

こ
子ども：お帰りなさい。今日は早かったわね。

とう
お父さん：今日は道路が渋滞していなかったからね。車の運転も楽だったよ。ところで、学校から帰って宿題をしたのかい。

こ
子ども：宿題はちゃんと終わらせたし、ピアノの練習もすませたわ。そのあと公園で友達と遊んだの。

とう
お父さん：そうか。それで、どこの公園に行ったんだい。

こ
子ども：「スマイルにここ公園」に遊びに行ったの。

とう
お父さん：ほお、「スマイルにここ公園」か。お父さんも小学生のころ、よく遊びに行ったよ。当時は、お父さんたちしか遊んでいる人はいなかったけどね。

こ
子ども：いまはたくさんの人が遊んでいるわよ。でもね、今日、「スマイルにここ公園」のとなりに住む田中さんにしかられたの。

とう
お父さん：えっ、どうしてしかられたんだい。

こ
子ども：さとしくんがけたボールが公園の柵を飛びこえて、田中さんの家に当たったの。

とう
お父さん：それはしかられても仕方がないよ。でも、①お父さんが小学生のころは、ボールで遊んでいても、しかられることはなかったんだけどな。

こ
子ども：えっ、なぜ。いまは公園内でのボール遊び禁止の看板が立っていて、ボールで遊びたくても遊べないの。

とう
お父さん：そうか、お父さんのころとは様子が変わってしまったんだね。

こ
子ども：いまどきの公園はボール遊び禁止のところが多いから、遊び場所がなくて困っているの。

かあ
お母さん：ただいま。

こ
子ども：お帰りなさい、お母さん。お父さんより帰りが遅かったわね。

かあ
お母さん：あら、ごめんなさい。ところで二人とも、むずかしい顔をしてどうしたの。

こ
子ども：今日、「スマイルにここ公園」に遊びに行くからねってメー

ルしたわよね。

お母さん：ええ、見たわ。

子ども：そこで、みんなでボール遊びをしていたら、さとしくんのけたボールが田中さんの家に当たってしかられたの。「家にボールを当てちゃだめじゃないか。そもそも、ボール遊びは禁止だろ！」と言われたわ。

お母さん：あの公園はボール遊び禁止でしょ。知っていて遊んでいたの。

子ども：うん、ごめんなさい。

お母さん：すぐにあやまりにいったの。

子ども：いいえ。ボールを取りに行ったあと、そのまま遊んでいたら、田中さんが家から出てきてしかられたの。

お母さん：それじゃ、しかられて当然ね。

お父さん：ところで、「スマイルにここ公園」も昔みたいにボール遊びができるようにならないかな。

お母さん：そうね、なにかよい考えはないかしら。

お父さん：まずは、②なぜ田中さんにしかられたのかを考えないとだめだね。それから、③公園で遊んでいる他の人たちのことも考えなくちゃいけないだろうね。この2つのことをしっかりと考えて、④みんなが納得できるルールを市長さんに提案したら、昔のようにボールで遊べる公園になるかもしれないね。

子ども：みんなが納得できるルールって、どうしたらいいのかしら。

お父さん：それはいつも一緒に遊ぶ友だちと話し合っごらん。大人がアイデアを出すより、子どもたちの素直なアイデアの方が市長さんに伝わると思うよ。

子ども：なにかよいアイデアはないかしら。なかなかむずかしいわ。

お母さん：さて、この続きは夕飯を食べてからにしましょう。今日の夕飯はカツカレーよ。

お父さん：おっ、カツカレーか。お父さん、大好きなんだ。

(1) 下線部①について、1970年代の「スマイルにこにこ公園」では、ボール遊びをしてもしかられることはありませんでした。その理由として考えられるものを会話文Ⅰの中からみつけ、会話文Ⅰの文章を用いて、50字以内で書きましょう。

なお、「、」や「。」も1字として数えることとします。

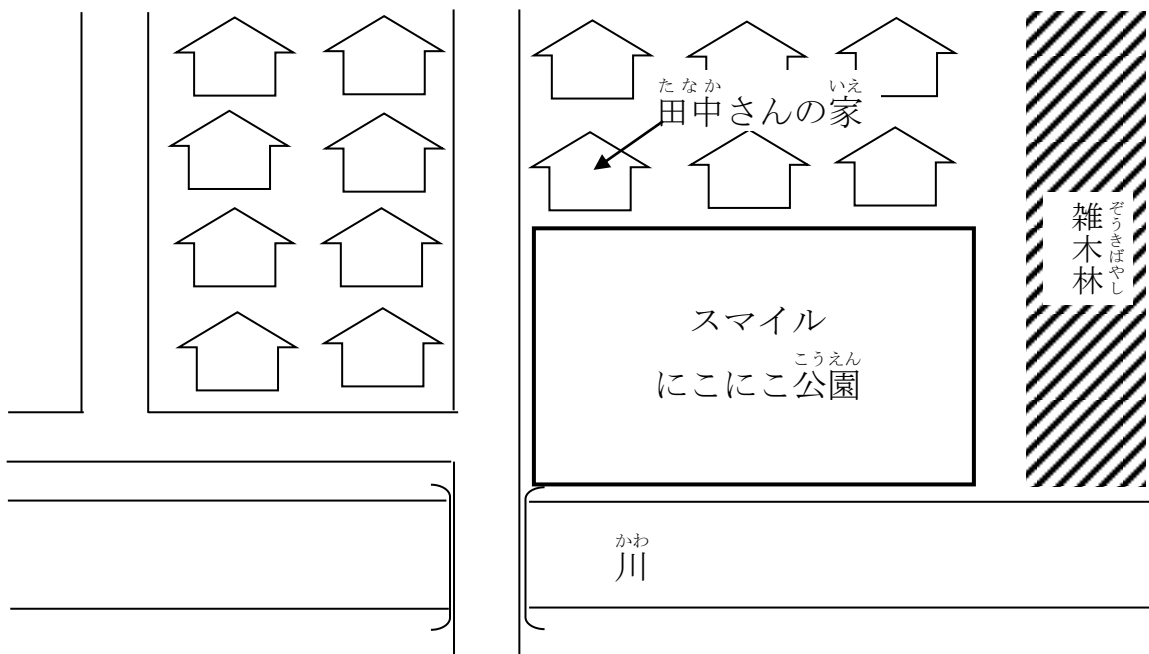
(2) 下線部②について、田中さんにしかられたのはなぜだと考えられますか。会話文Ⅱの内容から判断できるものを、すべて書きましょう。

(3) 下線部③について、公園で遊んでいる他の人たちの立場で考えたとき、ボール遊びを禁止とするのはなぜだと考えられますか。会話文Ⅰの内容から判断できるものを、すべて書きましょう。

(4) 下線部④について、お父さんのアドバイスをすべていかして、「みんなが納得できるルール」をあなたが考えたとしたら、どのようなルールを提案しますか。下の地図も参考にして、解答用紙に具体的な提案内容を書きましょう。

なお、公園の柵を高くしたり、公園の面積を大きくしたりするなど、公園そのものを変更する提案はできないものとします。

2014年現在の「スマイルにこにこ公園」の周辺地図



これで、てきせいけんさ適性検査Ⅱのもんだい問題はお終わりです。

平成27年度 市立札幌開成中等教育学校入学者選考
適性検査Ⅱ